

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 2 4 年度病害虫防除情報第 4 号

いもち病の発生状況についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

いもち病の防除を徹底しましょう。
雨の多い時は雨間散布を行い、適期防除に努めましょう。

1. 作物名 早期水稲

2. 病害虫名 いもち病（穂いもち）

3. 発生状況

- (1) 6月中旬の巡回調査における葉いもちの発生面積率は 12.5 % (平年 20.0 %)、発病度は 0.47 (平年 1.54) で、いずれも平年並である (表 - 1)。
- (2) アメダスデータを利用したいもち病発生予測システム (BLASTAM) によると 6 月に入って県内各地で感染好適日が出現しており、今後の発生の拡大が予想される。
- (3) 向こう 1 ヶ月の天候は、前半は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平年並または高い確率がともに 40 % と予想されている (鹿児島地方気象台 6 月 2 2 日発表 1 ヶ月予報) ことから、病徴の進展に好適であり注意が必要である。

表 - 1 6 月中旬の葉いもち発生状況

区分	調査地点数	程度別発生面積率 (%)			発生面積率 (%)	発病度
		甚	多	中 少		
全県	32	0.0	0.0	0.0 12.5	12.5 (20.0)	0.47 (1.54)

() 内は平年値

4. 防除上の注意

- (1) 穂いもちを対象に、穂ばらみ後期と穂揃期の防除を徹底する。
- (2) 本田で粒剤処理をしても、葉いもちの発生が多く、上位葉に進展している場合や、出穂期及びその後も降雨が続いて穂いもちの発生が予想される場合には、穂揃期の 7 ~ 10 日後に追加防除を行う。
- (3) 雨の多い時は雨間散布を行い、防除適期を失ないようにする。
- (4) 無人ヘリ防除が行われない地域は広域の集団一斉防除に努め、防除効率を高める。
- (5) 穂肥の施用に当たっては、イネの生育状況や今後の気象の推移を考慮して適切に行う。

5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局 (農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6 月 1 日から 8 月 31 日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

連絡先

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 斎藤

:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127

ホームページ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>

E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp